

全体総括

○計画期間；平成21年3月～平成27年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

守山市では、平成21年3月27日に内閣総理大臣の認定を受け、『絆と活力ある「共生都市」の創造』を基本理念として、「子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち」「住民参加により、地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しいまち」を目標に、「行政が半歩前に進み、民間がそれに続く」を基本として、これまで61事業に取り組んできた。

その結果、集える場所・憩える場所や訪れやすい環境、歴史に親しめる場などが創出され、将来にわたって老若男女が生き生きと生活する中心的地場であることが実感しやすくなった。

特に、環境に配慮して建替え・合築された守山小学校・守山幼稚園の隣接地に、福祉・文化・交流・商業機能を合わせ持つ「中心市街地活性化交流プラザ（愛称：あまが池プラザ）」が整備されたことによって、行き交う人が多様化しながら増加し、賑わいの核となる場が創出された。

また、旧中山道の沿道において街並みの修景を行うと共に、町家を活用して地域活性化施設や商業施設を「歴史文化まちづくり館（愛称：守山宿・町家“うの家”）」として整備したことによって、歴史に親しみながらゆっくりと時間を過ごせる場であると共に集客の核となる場が創出され、賑わいの創出に大きく寄与している。

上記の2つの施設の付近には、空地を活用して駐車場を整備したことによって、徒歩圏以外の遠方からも来街しやすい環境が整えられ、集客力が向上した。

これらのことに伴い、中心市街地の活性化に対する機運や注目度がますます高まった結果、居住人口が増加し続けると共に、当初計画では予定されていなかった商工会議所や商店街が主体となった取り組み「100円商店街」「バル」「まちゼミ（得する街のゼミナール）」等が発生・拡大・発展しており、目標に掲げている「子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち」「住民参加により地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しいまち」の実現に向けて着実に進んでいる。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業は概ね遅滞なく実施できており、全 61 事業のうち、33 事業が完了、28 事業が着手済み又は継続実施中で次期計画に引き継がれる予定となっている。

■市街地整備関連

市街地の整備改善のため予定していた 17 事業全てに着手している。現在、残る事業の完了に向けて取り組んでおり、全体として順調に進捗している。特に、回遊したくなる都市基盤として、安心して歩ける歩行空間確保、道路の美装化、「水辺遊歩道ネットワーク」、「歴史回廊ネットワークの整備」、「分かりやすいサイン表示」を推進した。

■都市福祉施設整備関連

予定していた 13 事業全てに着手し、特に、老朽化が進んでいた守山小学校と守山幼稚園の合築に合わせた福祉文化交流施設（市民ギャラリー・多世代交流施設・地域活性化施設）の整備により、多世代の交流が促進されている。

■居住環境の向上関連

予定していた 5 事業全てに着手しており順調に進捗している。特に、中山道守山宿の歴史的景観保全を進める本市において、中山道の街並みに合致した修景整備に対する助成申請が民間から 5 件寄せられる等、居住環境の向上に向けた取り組みが民間レベルでも進められている。

■商業の活性化関連

現在、建て替え等に向けて検討を進めている平和堂守山店の建て替え事業以外の 24 事業全てに着手済みであり、順調に進捗している。活用検討事業を実施した結果、民間が主体となった施設整備に向けて動き出した事業が複数見られている。

活性化の実現に向けては、ハード施策とソフト施策の両方を講じる事が効果的である。守山市の中心市街地活性化基本計画では、市が事業主体となった賑わいの場を創出するハード事業が目玉であったが、これに合わせて民間が事業主体となったソフト事業が行われたことが、活性化が図られた要因として挙げられる。

また、その過程においては、市民の関心が高いことや市長との対話（どこでも市長室）、市議会での議論等による熟度の高まり等の影響によって、各種事業の合意形成が円滑に図られたものと考えられる。

地域コミュニティの醸成やにぎわいの創出につながる

100 円商店街やバル・得する街のゼミナール等、榎みらいもりやま 21（まちづくり会社）や商工会議所が中心となって商業者間の連携が強化されイベントが増加したことによって、地域コミュニティの醸成やにぎわいの創出につながっている。

「あまが池プラザ」は子育て世代の情報交換・憩いの場となる

中心市街地活性化交流プラザ（愛称：あまが池プラザ）は近隣市民の利用も多く、守山市の周辺都市を含めたエリアの交流の場となっている。また、教育施設（小学校・幼稚園・保育園）や緑地公園に隣接しているため、特に子育て世代の母親達の情報交換・憩いの拠点となっている。

「守山宿・町家“うの家”」は、地域コミュニティの強化に寄与

歴史文化まちづくり館（愛称：守山宿・町家“うの家”）では、歴史・文化の情報発信・物産販売以外にも、結婚式や地域の行事等にも利用されており、地域コミュニティの強化にも寄与している。

水辺遊歩道ネットワーク整備により回遊性向上や歩行者・自転車通行量が増加

水辺遊歩道ネットワーク整備に合わせて、あまが池親水緑地を始めとする休憩できる場所を提供したことによって、回遊性の向上や歩行者自転車通行量の増加につながっている。

道路の美装化、沿道建築物の修景整備も寄与

道路の美装化（カラー舗装、無電柱化）や歩行者支援施設（案内路面表示、ベンチ設置）に加えて沿道建築物の修景整備を進め、歴史回廊ネットワークの形成を進めたことによって、歩きたくなる環境が高まり回遊性の向上や歩行者自転車通行量の増加につながっている。

中活区域内での民間事業の活発化

多種多様な活性化事業を実施した結果、中心市街地の魅力が高まりまちの環境が向上したことにより、施設の建て替え・リニューアル時期を迎えた民間企業が転出せずに、中心市街地内での更新が活発化している。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

守山市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地の活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地内において、新しい歴史文化、交流施設等の拠点施設が整備され、賑わいの拠点が創出されると共に、それらを拠点として多様なイベントも実施され、まちづくり会社を中心とした民間主体の取り組みも活発化した結果、2つの数値目標「福祉・文化・交流施設の利用者数」「歩行者・自転車通行量(平日)」とも目標を達成できた。

その一方で、市民からは「活性化の実感が少ない」との声も聞かれており、今後もまちづくりへの機運の高まりを絶やすことなく、1期中活で盛り上げられた元気な中心市街地活性化を継続して行い、「魅力的で持続可能なまちづくり」「将来的な課題を見据えたまちづくり」を引き続き官民一体となって取り組んでいく必要がある。（平成27年5月12日開催 第18回守山市中心市街地活性化協議会）

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化した）

【詳細を記載】

■ 守山市中心市街地活性化基本計画 効果検証のための市民意識調査

調査の概要

調査期間：平成 27 年 3 月 7 日～3 月 22 日

調査方法：郵送によるアンケート配布、回収

配布数：1,000 票（市域全域から 1,000 人を抽出）、回収数：340 票、回収率：34.0%

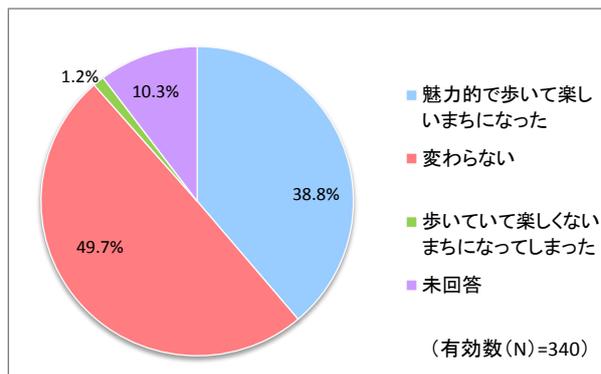
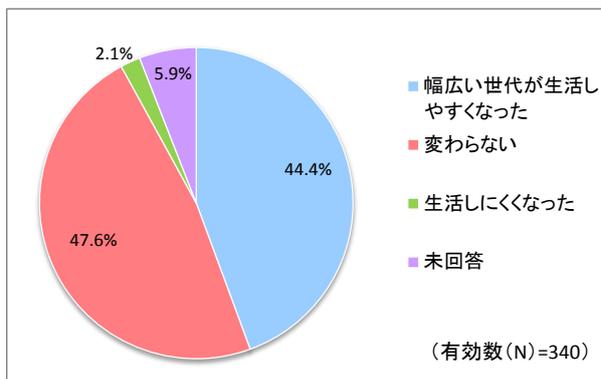
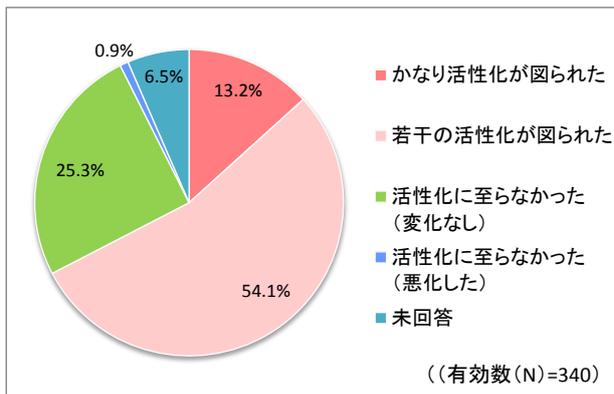
《「中心市街地における活性化の状況」について》

半数以上の回答者が「若干の活性化が図られた」と回答していた。次いで「変化なし」、「かなり活性化が図られた」の順となり、「悪化した」との回答はごく少数であった。

また、生活しやすい環境づくりに関しては、「変わらない」と「幅広い世代が生活しやすくなった」との回答が 4 割強ずつを占め、「生活しにくくなった」との回答はごく少数であった。

一方、歩いて楽しいまちづくりに関しては、「変わらない」との回答が約半数を占めた。これは、アンケート実施時点で整備が完了しておらず、効果が十分に発現していないことも関係しているものと考えられる。

総括すると、本アンケート実施前は「市民に活性化の実感が薄い」との認識が強かったものの、現在では多少なりとも活性化の効果が感じられているものと捉えられる。



6. 今後の取組

今後、「守山銀座商店街再開発事業」「近江鉄道ビル建て替え事業」「平和堂守山店建て替え事業」「セルバ守山 1・2 階活性化事業」の 4 つの民間事業が動き出そうとしている等、民間主導によるまちづくりの機運が高まっている。

また、「県立成人病センター」においては、病院機能の強化・再構築を図るため新病棟の整備が進められているなか、聴覚・コミュニケーション医療センター構想の推進に取り組んでおり、将来は国内外からの多くの来院が予想され、老朽化した「市立図書館」においては、再整備によってより多くの市民が読書に親しむだけでなく、新たな憩える場の創出を目指している。

これらの状況を踏まえて、市民が心豊かに、健やかに、市民運動公園や駅前周辺を回遊でき、さらに新たなサービスにより健康・予防医学に主眼を置き衣・食・住・運動等、多角的に病気の予防と治療、そして「からだところ」の健康を回復・増進するための様々な技術、サービス、モノ、情報を発信する核となる区域を形成することが求められている。

平成 25 年度の中心市街地活性化協議会及び検討委員会においては、「数値目標は達成し、施設整備の効果は実感するが、活性化の実感は少ない」等のご意見をいただいております。今後、新計画に基づいて、引き続き中心市街地活性化に向けた取り組みを効率的かつ円滑に推進していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち	福祉・文化・交流施設の利用者数	126,082 人/年 (H19)	163,000 人/年 (H26)	244,182 人/年	H27.3	A
住民参加により、地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しいまち	歩行者・自転車通行量(平日)	6,002 人/日 (H19)	6,200 人/日 (H26)	7,051 人/日	H26.11	<u>a</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

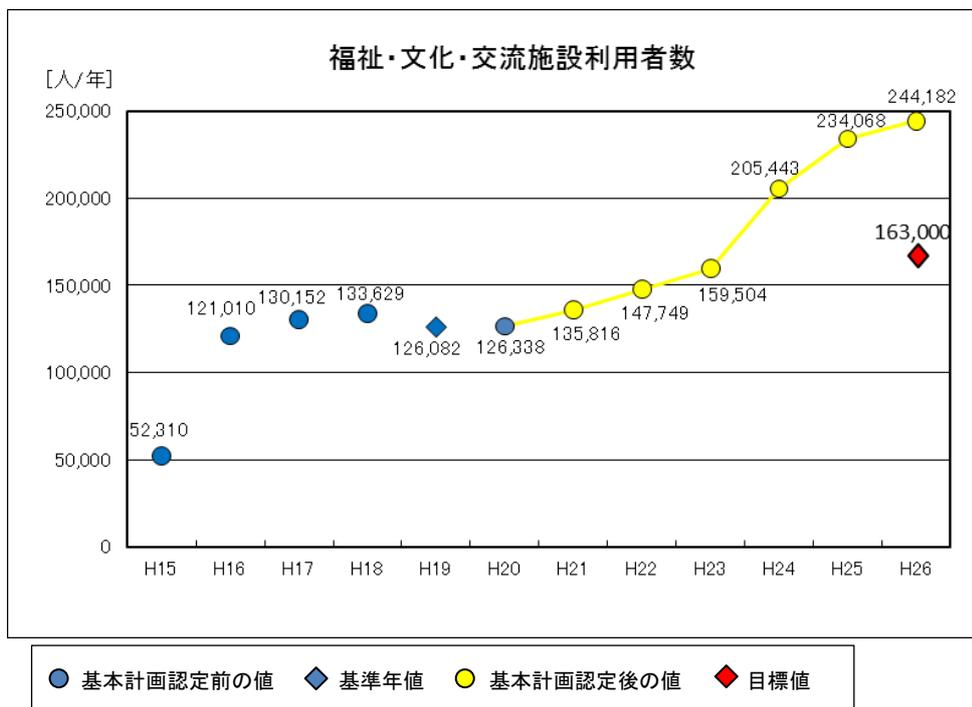
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち」

「中心市街地の福祉・文化交流施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P44～P46 参照

1. 調査結果の推移



年度	(人/年)
H19	126,082 (基準年値)
H20	126,338
H21	135,816
H22	147,749
H23	159,504
H24	205,443
H25	234,068
H26	244,182
H26	163,000 (目標値)

※調査手法；調査対象施設の利用者調査

※調査月；施設開館日は毎日実施、年度末取りまとめ

※調査主体；各調査対象施設管理者

※調査対象；守山公民館、駅前総合案内所、駅前コミュニティホール、市民交流センター、守山小学校に併設する都市福祉施設（市民ギャラリー、特定高齢者向け介護予防教室、子育て支援施設）、歴史文化拠点施設、中山道街道文化交流館

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①福祉・文化・交流施設の複合化事業（守山市）

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業、平成 21 年度 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（守山中心市街地地区））、平成 23～24 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 21 年度 [事業完了時期]平成 24 年度【済】
事業概要	守山小学校と守山幼稚園の合築に合わせ、公共施設（市民ギャラリー・特定高齢者の介護予防教室・子育て支援施設・多世代や障がい者などの交流促進施設・地域活性化施設）を整備する。
目標値・最新値	[目標値]25,900 人/年 [最新値]47,079 人/年
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	平成 24 年 7 月のオープン以降、まちづくり会社による利用者ニーズに配慮した運営に留意・実践しているため。

計画終了後の状況（事業効果）	合築した小学校・幼稚園に隣接する立地条件も相まって、新たな福祉・文化・交流拠点が形成されたことによって、子育て世代を中心とする幅広い年代の人々による賑わいが創出されている。
事業の今後について	実施済み

②歴史文化拠点整備事業(守山市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(守山中心市街地地区))、平成 22～23 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 22 年度 [事業完了時期]平成 23 年度【済】
事業概要	町家を活用して歴史文化の拠点となる施設を設置し、守山の歴史文化の情報発信や物産販売を行う。
目標値・最新値	[目標値]7,000 人/年 [最新値]27,190 人/年
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	平成 24 年 1 月のオープン以降、まちづくり会社による利用者ニーズに配慮した運営に留意・実践しているため。
計画終了後の状況（事業効果）	歴史・文化をテーマにしたイベントや講座が継続的に開催されており、比較的高年齢層の人々による賑わいが創出されている。
事業の今後について	実施済み

③旧八幡信用金庫広場整備事業(守山市)

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金、平成 21 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 21 年度 [事業完了時期]平成 22 年度【済】
事業概要	市民、来訪者の交流を促進するため、中山道街道文化交流館の機能充実の一環として、広場・駐車場を整備する。
目標値・最新値	[目標値]4,500 人/年 [最新値]5,530 人/年
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	近接部における広場・駐車場の整備によって、訪れやすい環境が高まったため。
計画終了後の状況（事業効果）	整備した広場において定期イベントが継続的に実施されており、中心市街地におけるイベント拠点・賑わい拠点の一つとして認識が高まっている。
事業の今後について	実施済み

3.今後について

新計画で新たに対象施設となる市立図書館及び守山野洲市民交流プラザを含め、今後も市民ニーズに合わせて継続的な取り組みを進めていく。

数値目標は大きく上回っているものの、対象施設の全てが順調な訳ではないため、近年、利用者数が減少傾向である施設においては利用者の増加に向けた課題や対策を検討していく。

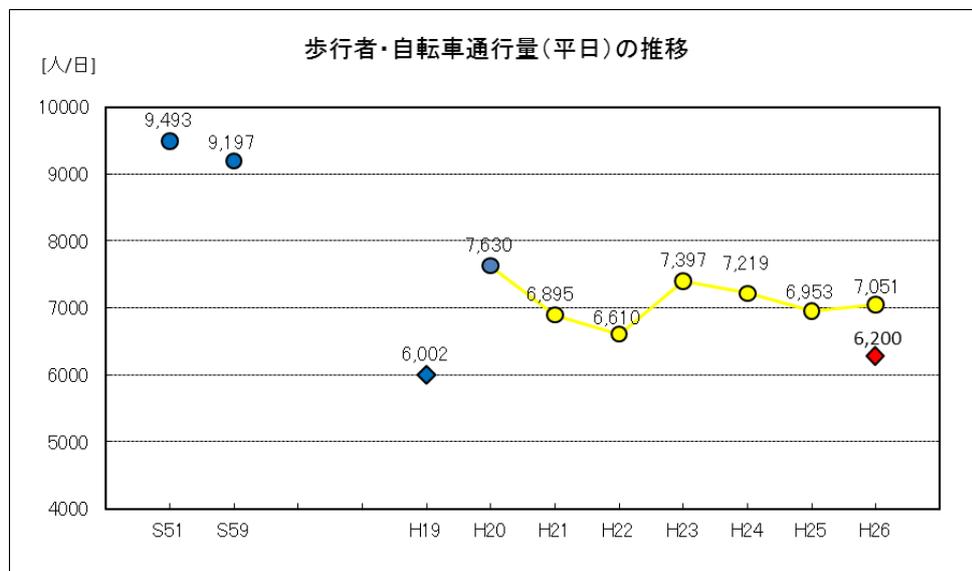
新計画においても継続して指標として設定し、目標値を定め様々な事業に取り組んでいく。

個別目標

目標「住民参加により、地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しいまち」

「歩行者・自転車通行量(平日)」※目標設定の考え方基本計画 P47～P51 参照

1. 調査結果の推移



年度	(人/日)
H19	6,002 (基準年値)
H20	7,630
H21	6,895
H22	6,610
H23	7,397
H24	7,219
H25	6,953
H26	7,051
H26	6,200 (目標値)

● 基本計画認定前の値 ◆ 基準年値 ● 基本計画認定後の値 ◆ 目標値

※調査手法；歩行者・自転車通行量(平日)調査

※調査月；毎年度11月の平日

※調査主体；守山市

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、平日3地点(北野電気前(銀座通り)、宇野本家前(旧中山道)、沢井電気店前(ほたる通り商店街))

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①歴史文化拠点整備事業(守山市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(守山中心市街地地区))、平成22～23年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成22年度 [事業完了時期]平成23年度【済】
事業概要	町家を活用して歴史文化拠点を設置し、守山の歴史文化の情報発信や物産販売を行う。
目標値・最新値	[目標値]56人/日 [最新値]51人/日(事業①②の合計)
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	地域活性化施設を含めた歴史文化拠点施設の利用者数が当初見込みよりも少なかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	歴史・文化をテーマにしたイベントや講座が継続的に開催されており、比較的高年齢層の人々による賑わいが創出されている。
事業の今後につ	実施済み

いて	
----	--

②旧八幡信用金庫広場整備（守山市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金、平成 21 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 21 年度 [事業完了時期]平成 22 年度【済】
事業概要	市民、来訪者の交流を促進するため、中山道街道文化交流館の機能充実の一環として、広場・駐車場を整備する。
目標値・最新値	[目標値]56 人/日 [最新値]51 人/日(事業①②の合計)
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	地域活性化施設を含めた歴史文化拠点施設の利用者数が当初見込みよりも少なかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	整備した広場において定期イベントが継続的に実施されており、中心市街地におけるイベント拠点・賑わい拠点の一つとして認識が高まっている。
事業の今後について	実施済み

③水辺遊歩道ネットワークの形成事業（守山市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金、平成 21 年度 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(守山中心市街地地区))、平成 22～25 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 21 年度 [事業完了時期]平成 26 年度(平成 25 年度繰越)【済】
事業概要	中心市街地を流れる守山川、丹堂川、金森川、目田川において水辺遊歩道を整備するほか、丹堂川、金森川においてほたるが自生できるような護岸整備を行う。また、遊歩道には所々に市民が休憩できる小さな公園を整備する。
目標値・最新値	[目標値]756 人/日 [最新値]1,651 人/日(事業③④⑤の合計)
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	事業の実施によって、水辺の自然を楽しみながら安全・安心に歩ける環境や回遊性が向上したため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業完了によって、豊かな自然を楽しみながら回遊を楽しめる歩行者ネットワークが形成されたことにより、住みたくなる環境が高まっている。
事業の今後について	実施済み

④中山道の街並み整備事業（守山市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(守山市南部地区)地方都市リノベーション事業と一体の効果促進事業、平成 20～26 年度
-------------	---

事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 20 年度 [事業完了時期]平成 26 年度【済】
事業概要	中山道守山宿等地区計画区域内の沿道に面した建築物等において、地区計画および施工基準に適合した修景整備を行った場合に助成を行う。
目標値・最新値	[目標値]756 人/日 [最新値]1,651 人/日(事業③④⑤の合計)
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	事業の実施によって、中山道の歴史を感じながら歩きたくなる環境が高まったため。
計画終了後の状況(事業効果)	事業の進捗によって一体的な歴史的雰囲気が出されるとともに、沿道住民の観葉植物設置等による魅力向上が実践されており、歩きたくなる街並みの形成・保全に加えて、地域への愛着や環境への意識も高まっている。
事業の今後について	連続性のある歴史的街並み環境の形成・保全を考慮しながら継続

⑤道路の美装化事業(滋賀県、守山市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(守山中心市街地地区))、平成 24～25 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 21 年度 [事業完了時期]平成 26 年度(平成 25 年度繰越)【済】
事業概要	沿道に歴史的建造物が残るほたる通り及び中山道の一部の区間において、美装化を施した道路舗装を行う。また、親水緑地等に面した道路の無電柱化を行う。
目標値・最新値	[目標値]756 人/日 [最新値]1,651 人/日(事業③④⑤の合計)
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	事業の実施によって、中山道の歴史を感じながら歩きたくなる環境が高まったため。
計画終了後の状況(事業効果)	事業の進捗によって一体的な歴史的雰囲気が出されるとともに、沿道住民の観葉植物設置等による魅力向上が実践されており、歩きたくなる街並みの形成・保全に加えて、地域への愛着や環境への意識も高まっている。
事業の今後について	実施済み

⑥福祉・文化・交流施設の複合化事業(守山市)

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業、平成 21 年度 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(守山中心市街地地区))、平成 23～24 年度
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成 21 年度 [事業完了時期]平成 24 年度【済】
事業概要	守山小学校と守山幼稚園の合築に合わせ、公共施設(市民ギャラリー・特

	定高齢者の介護予防教室・多世代交流促進・地域活性化施設)を整備する。
目標値・最新値	[目標値]66人/日 [最新値]75人/日
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	施設整備だけでなく、利用者のニーズを踏まえた様々なソフト事業の取り組みを進めたため。
計画終了後の状況(事業効果)	合築した小学校・幼稚園に隣接する立地条件も相まって、新たな福祉・文化・交流拠点が形成されたことによって、子育て世代を中心とする幅広い年代の人々による賑わいが創出されている。
事業の今後について	実施済み

⑦東門院門前にぎわいづくり事業((社)ループプランニング)

支援措置名及び支援期間	地域介護・福祉空間整備等交付金、平成20年度～
事業開始・完了時期	[事業開始時期]平成20年度～【実施中】
事業概要	守山宿らしい景観を確保しつつ、東門院を中心にその隣接する町家を活用し、賑わいの創出と高齢者の居場所づくりを行う。
目標値・最新値	[目標値]31人/日 [最新値]31人/日
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	既存の組織・イベントとの連携を図りながら、ニーズに合わせた魅力向上を行ったため。
計画終了後の状況(事業効果)	まち家を活用したカフェ事業、サロン・門前アート市等の効果発現により、高齢者を中心とする賑わいが創出されている。
事業の今後について	民間事業者により継続

3.今後について

目標を上回る数値で推移してはいるが、平成23～25年度は減少傾向が続いたため、中心市街地内の核となる施設(チカ守山、守山市中心市街地活性化交流プラザ、守山市歴史文化まちづくり館等)を回遊するイベントの実施や中心市街地内の各地での朝市の開催等により歩行者・自転車通行量の増加を促進してきた結果、平成26年度には再び増加に転じた。

このような状況を踏まえて、今後も引き続きイベントや関係者間の連携強化を図りながら、多くの人が参加したくなるような多様で魅力的なソフト事業を継続していくことによって、より多くの歩行者・自転車通行量を生み出し、賑わいの創出に努めていく。